

論文内容の要旨

報告番号		氏名	西村 友紀
Clinical and immunologic features of recurrent herpes zoster (HZ)			
(和訳)			
再発性帯状疱疹の臨床的、免疫学的特徴			

(背景)

水痘帯状疱疹ウイルスは初感染により水痘を引き起こし、その後神経節に潜伏し、再活性化により帯状疱疹を引き起こす。一般に帯状疱疹の再発は非常にまれなことと考えられており、これまで再発性帯状疱疹についての詳細な免疫学的検討はされていない。

(方法)

小豆島の50歳以上の住民を対象にした3年間の大規模な前向きコホート研究を行った。再発性帯状疱疹の特徴を明らかにするため、発症頻度、皮疹や疼痛の重症度、免疫状態について初発性帯状疱疹と比較し検討した。

(結果)

再発性帯状疱疹の発症頻度は初発型とほぼ同等であると判明した。ただし臨床症状は、50歳から79歳では、皮疹の重症度や急性期の疼痛は初発型と比べて軽症であり、PHN(帯状疱疹後神経痛)への移行が少なかった。また免疫学的には、再発型では初発型と比べ、水痘帯状疱疹ウイルスに対する細胞性免疫が強いことが明らかになった。

(結論)

再発性帯状疱疹はこれまで考えられていたよりも多いことが明らかとなった。また、再発型は初発型よりも軽症であったが、その理由として、帯状疱疹の初回発症時に賦活された細胞性免疫により、再発時には症状が緩和されるものと考えられた。